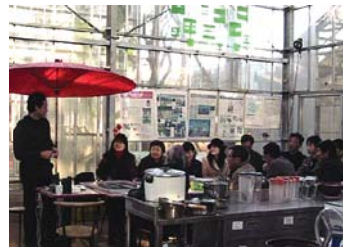


ミレニアムシティを訪れた団体

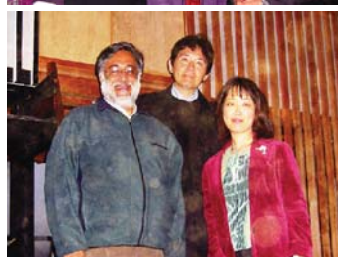
今期、ミレニアムシティには今まで以上に多彩な方々が見学や体験に訪れました。その中から団体の方々をご紹介します。

● JIA 環境行動委員会の皆さん



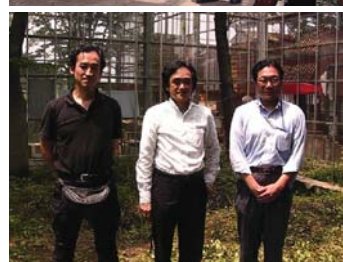
2007年12月14日、JIA((社)日本建築家協会)環境行動委員会の方々がりもとミレニアムシティを視察に訪れました。滋賀県立大学名誉教授の林昭男教授のご意向で、同委員会の濱田ゆかりさんからオファーを頂きました。数ある環境建築の中でも特にくりもとミレニアムシティは、インパクトがあったようで落葉高木と温室、COYAの組み合わせによる自然のリズムの超省エネ建築に皆さん驚かれていました。

● インドのトニーさん



世界を飛び回る実業家であるトニーさんは、5年前からヒマラヤの近く標高2000mのところにエコビレッジを計画中です。その参考にと、2008年5月12日、インターネットで知ったくりもとミレニアムシティを訪ねていただきました。彼が計画中のエコビレッジは2009年には完成予定だそうです。あさひミレニアムシティ(海と風の丘ミレニアムシティ)の竣工の時期と同じになりそうです。そこで、完成後はネットワークを組んで相互に行き来しようということで意気投合しました。

● 建築学会作品選奨審査会の皆さん



日本建築学会のその年の優れた建築物を表彰する作品選奨の第一次審査をくりもとミレニアムシティ第1期が通過し、2008年7月5日(土)、第2次の現地審査を行うために2名の審査員(芝浦工業大学工学部建築学科の堀越英嗣教授と、㈱日総建の佐藤勝久氏)が訪れました。くりもとミレニアムシティの半セルビルドの建築のつくり方と、温室と落葉高木が作り出す中庭の美しさに感動されたということです。

● 神奈川大学建築学科 室伏・富井研究室



神奈川大学建築学科の室伏先生、富井先生を含む総勢35名の方がゼミ合宿として滞在されました。エコビレッジの見学や説明、有機農場での農業体験など、ふだんの授業とは違う体験に皆さん新鮮な驚きを感じていただけたようです。

● 環境共生住宅推進協議会の皆さん



2008年3月7日、環境と共生する住宅を研究し推進する協議会から16名の方がおいでになりました。設備らしい設備がないくりもとミレニアムシティが、通常計画されている環境共生住宅と全く違うことに驚きと戸惑いを持たれたようにお見受けしました。

● 韓国のソウル大学の李さん



ソウル大学で建築を教えている李さんは、ドイツ、イギリスの環境建築を視察したあと、日本に。日本の本屋で見つけたエコロジー建築の本の中からくりもとを気に入り、アボなしで訪ねてきました。2008年7月26日のことです。偶然、ワークショップで滞在中だったので会うことができました。来年、学生を連れてふたたびくりもとミレニアムシティを訪ねたいと言っています。

新しい温暖化対策手法を求めて

環境省次世代政策研究会議でプレゼンテーション



会議の様子

環境省ではいかに二酸化炭素の排出を減らすかが一大課題となっていますが、さらに政策として別の視点から考えられることはないかを研究しています。次世代政策研究会議という研究会から、NPO法人ミレニアムシティの活動に興味を持っていただき、プレゼンテーションのためにご招待をいただきました。

2008年6月4日、環境省の会議室で会議は行われました。環境省からは、元地球温暖化対策課長の清水康弘さんをはじめ、各課の課長、課長補佐、係員まで、17名の方が参加されました。ミレニアムシティからは7名が参加しました。会議では、ミレニアムシティの概要を簡単に説明し、これまで放送されたテレビ番組から2つを見ていただきました。その後、メンバー一人ひとりの活動に対する思いや考えを述べさせていただき、質疑応答に入りました。すでにホームページで内容をご覧になっている方も多く、エコビレッジを実際につくり、今また新たな施設を作ろうとしていることに関心を持っていただきました。この会合を一過性のものに終わらせることなく、引き続き行政とNPOがタイアップして温暖化に取り組む(仮称)地球環境蘇生アルタナティブ研究会の設立が模索されています。



模型を持っているのは環境省の元地球温暖化対策課長 清水康弘氏



会議に参加されたみなさん